

インタビュー

ブロードバンド・ユビキタス時代の「サービス創造グループ」を目指す

本年10月より最大通信速度約1Gbpsの法人向けサービス「フレッツ光ネクスト ビジネスタイプ」のサービスを開始するなどNGN(次世代ネットワーク)の展開を加速するNTTグループ。NGNの特徴である高品質・高セキュリティ等を活かし、グループをあげて「SaaS over NGN」構想に基づくSaaSビジネスに注力するNTTの取組みについて、宇治則孝代表取締役副社長にうかがった。



日本電信電話(株)
代表取締役副社長
宇治 則孝氏

NGNの特徴を活かす「SaaS over NGN」にグループをあげて取り組む

—SaaS (Software as a Service) やPaaS (Platform as a Service) などサービス化への流れが加速する中、本年初めに「SaaS over NGN」をテーマにしたグループ連携のタスクフォースを立ち上げるなど積極的な取組みを行っていますが、その背景と狙いからお聞かせください。

宇治 NTTグループは、本年5月に新中期経営戦略にて「サービス創造グループを目指して」を掲げ、2010年までにFTTH2000万加入・NGN(次世代ネットワーク)全国エリア拡大やモバイルの3G/スーパー

3Gの展開により情報インフラを整備するとともに、2012年までにその情報インフラを利用して世の中のサービス融合を促進し、ブロードバンド・ユビキタスサービスを本格的に展開するというロードマップを発表しています。NGNやスーパー3Gを活用したサービスについては、ビジネス向けやホーム向けに様々考えられると思いますが、いろいろな企業の皆様とともにサービスを創っていきたく考えています。

このような活動の中で、有望なサービスの一つと捉えているのがSaaSです。以前からグループ各社でも関連するビジネスを展開していましたが、高品質・高信頼で「オープンとコラボレーション」を志向したNGNを核に、NTTグループをあげてSaaS関連ビジネスを積極的に推進する必要があると考え、タスクフォースを設置し「SaaS over NGN」というキャッチフレーズを掲げて活動しています。

「SaaS over NGN」の基本コンセプトは、様々なパートナーの皆様と協業・連携して、NGNを中心とした安心・安全なICT基盤上に新たなSaaS市場を創造していくことです。NGNとあわせて高信頼・高可用性を確保したデータセンターや利便性の高いプラットフォーム、コンサルやカスタマサポートなどトータルに提供することを視野に入れています。企業は、NGN上で提供されるSaaSサービスを安心して利用することができますし、アプリケーションを提供する事業者はSaaS基盤を活用してNGN上でサービス展開することも容易になるわけです。

総務省や経済産業省など国のレベルでもSaaSの活性化施策を展開しており、わが国のICTによる成長戦

略としても非常に重要であり、NTTとしても貢献していきたいと考えています。

——NTTグループとして、具体的なSaaS関連ビジネスとしてどのようなことを想定していますか。

宇治 ネットワーク（固定／携帯）、データセンター、認証連携や課金・決済・料金回収代行などの各種機能をグループ内で連携して提供するためのSaaSプラットフォームやアプリケーションサービスを検討しています。SaaSプラットフォームは、アプリケーションを提供する事業者に向けて使い勝手の良いものを目指し、NTTコミュニケーションズ、NTTデータの強みを活かした連携と持株研究所の技術を加えた検討を進めています。

SaaSアプリケーションについては、他の事業者との連携、アライアンスを積極的に進めたいと考えており、本年5月には、セールスフォース・ドットコムと「SaaS over NGN」で提携することを発表しました。当面は「Salesforce over VPN」ですが、今後は、SalesforceもSaaS over NGNに対応したSaaSアプリケーションとして提供する予定です。これ以外にも、いろいろな企業とのコラボレーションは積極的に進めています。また、ヘルスケアやGIS、電子申請などのNTTグループの得意分野のアプリケーションについてもSaaSでの提供を行うつもりです。

ブロードバンド・ユビキタス時代のサービス創造グループを目指す

——ネットワーク基盤を利用した「クラウドコンピューティング」が注目を集めていますが、SaaS over NGNもクラウドの一種ですか。

宇治 クラウドコンピューティングには様々な定義がありますが、SaaS over NGNもクラウドコンピューティングの一つの形態だと思います。NGNにはインターネットにはない、①品質確保（QoS）、②高セキュリティ、③信頼性確保、④オープンなインタフェースの4つの特徴があります。ネットワークを介してICTリソースの利用を可能にするクラウドは、これからのいろいろな展開が考えられますが、NTTグループが目指

す方向とかなり似通っています。

——今後の展望についてお聞かせください。

冒頭申し上げた中期経営戦略では、電話を中心としたレガシー事業から、IPとソリューション・新分野を中心とした事業構造に改革する

としています。事業の成長のためにも新たなサービス創造が鍵であり、SaaS over NGN以外にも、NTTグループ全体で連携して市場を創造していくテーマとして、デジタルサイネージ、ヘルスケア、ホームネットワークサービス、GISなどのタスクフォースを立ち上げたり、「次世代サービス共創フォーラム」を活用したりして、活動を推進しています。

一方、地球環境問題に対してICTの活用を考える必要があります。ICTが進化し、通信トラフィックが増大すると、CO₂の排出量が増加するという傾向があります。この増分を極力減らす取り組みとして、NTTグループでは自らグリーンデータセンターや関連するR&Dを推進しているところです。他方、ICTの活用によって社会全体の環境負荷を低減する効果があります。例えば、SaaSをはじめ電子商取引やテレワークなどによりエネルギーコストが大幅に減ると言われており、業界での排出量に比較してトータルでは社会に対する削減効果のほうが多いという試算もあります。

今後とも、NTTグループは、ブロードバンド・ユビキタスネットワークによる豊かなコミュニケーション環境の創造、企業活動の効率化、さらには新たなビジネス機会の創出に取り組み、グループの企業価値の増大に努めるとともに、「ICTによる社会の成長」と「ICTによる環境保護」に貢献したいと考えています。

——本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長 河西義人）

